

## 令和7年度第1回羽島市社会教育推進審議会 会議要旨

日 時	令和7年5月14日（水）午前10時00分～午前11時35分
場 所	羽島市役所301会議室
出席者	<p>（社会教育委員）出席者8人</p> <p>岩田 睦巳 委員（小中学校長会代表）          小森 博昭 委員（スポーツ推進会議代表）          服部 憲雄 委員（子ども会育成協議会代表）          堀 登司仁 委員（文化協会代表）          水谷 千枝 委員（レクリエーション協会代表）          渡邊 修 委員（コミュニティセンター館長会代表）          高砂 房子 委員（学校法人高砂学園代表）          二村 玲衣 委員（学識経験者）          （事務局）</p> <p>伊藤 佳津子（市民協働部長） 丸山 靖生（生涯学習課長）          柴田 泰宏（スポーツ推進課長） 番 重宗（図書館長）          吉川 徹（生涯学習課長補佐） 牛田 紗耶香（同課係長）          林 朋恵（同課主事）</p>
内 容	<p><b>1 開会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料確認</li> <li>・会議開催成立の報告</li> <li>・会議公開及び傍聴の有無の報告</li> <li>・委員長あいさつ</li> </ul> <p><b>2 議事</b></p> <p><b>(1) 各種委員の選出について</b></p> <p>事務局案を踏まえ、以下の通り選出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県社会教育委員連絡協議会評議員：小森博昭 委員</li> <li>・岐阜地区社会教育振興協議会委員：服部憲雄 委員</li> <li>・羽島市生涯学習都市推進会議委員：堀登司仁 委員</li> <li>・羽島市歴史民俗資料館運営協議会委員：渡邊修 委員</li> <li>・わたしの主張2025羽島市大会審査員：高砂房子 委員</li> <li>・教育振興基本計画策定委員：水谷千枝 委員</li> </ul> <p><b>(2) 社会教育関係団体への補助金交付について</b></p> <p>資料に基づき事務局から各団体への補助金内容を説明</p>

**(委員)**

令和8年度に予定されている総合文化祭の内容について、どのようなものか。

**(事務局)**

文化協会において、美術や音楽など各文化団体の事業をとりまとめて誰もが参加しやすい形で開催するもので、展示会や演奏会が行われる予定である。今年度具体的に準備を進めていく。

**(委員)**

市内からの参加か。

**(事務局)**

参加するのは市の文化団体である。

**(3) 各課・館の「事業計画」について**

生涯学習課(中央公民館を含む)・スポーツ推進課・図書館資料に基づき事務局から事業計画の説明

**(委員)**

今年度社会教育委員という立場で、学校は市の事業に対してどう協力できるか考えており、地域の方といっしょに学校をつくっていきたいということで、地域学校協働本部を立ち上げたところである。放課後子ども教室のサポーターが減ってきているという話を聞いており、地域で担当してくれる方がいないか学校運営協議会において話をさせていただいた。校長会でチラシを配ってはどうか。その他の事業についても、校長会で各学校へ伝えていくので、私にできることがあれば教えてほしい。

**(事務局)**

これまでもいろいろと支えていただき、感謝申し上げます。今後も協力して社会教育を推進していきたい。

**(委員)**

放課後子ども教室の具体的な内容や対象者を教えてほしい。

また、県の体育施設が40年ほど経ち老朽化が心配される。知事も新しく就任されたところなので、桑原地区にある宿の跡地に体育館の建設をお願いしていただきたい。新幹線の駅も近いの

で、多くのアスリートが来てくれると思う。

**(事務局)**

放課後子ども教室について、令和6年度は2年生・3年生で135名の参加があった。今年度も同様に市内9学校で、2年生・3年生もしくはその両方を対象とし、実施する。内容は、防災教室・グラウンドゴルフ・和太鼓・工作など多岐に渡っている。山車保存会など地域の皆さまにもご協力いただき、さまざまな体験活動を行っている。

**(委員)**

対象者を2年生と3年生としている理由は何か。

**(事務局)**

学童に入っている児童の多くが当学年であり、学童の保険に加入済のため負担が少なく参加できるというのが理由の一つにある。

**(委員)**

学童と放課後子ども教室の実施時間は重なっていないのか。

**(事務局)**

重なってはいるが、学童に入っている児童は放課後子ども教室終了後に学童へ移動している。

**(委員)**

放課後子ども教室は学童と趣旨が違い、地域の方と触れ合い地域の良さを感じてもらうことにある。また、放課後子ども教室は希望制であるが、指導者が見守ることができる範囲に限りがあることと、実施場所である空き教室が確保しづらいという問題もあり、さまざまな条件が重なっている。高学年になると伝統文化の授業があり、そこで地域の方と触れ合う機会があることも考慮し現在は2年生と3年生が対象になっていると理解している。

**(委員)**

孫の話になるが、条件に合わず学童に入れなかったものの、放課後子ども教室には参加することができた。さまざまな活動が体験でき非常に喜んでいた。

**(事務局)**

放課後子ども教室は文部科学省の所管、放課後児童クラブは厚生労働省の所管である。日中に働きに出ていることから子どもを見てほしいという保護者の方が増えてきたため、国としてもこの2つの事業を連携していく動きが出ている。羽島市でも、放課後子ども教室に参加の児童を学童へ送り届けたりして連携を図っており、子どもの居場所づくりや健全育成を進めているところである。本来であれば全学年を対象とすべきではあるが、委員が話されたとおり、指導者や空き教室の問題、1年生と6年生がいっしょに活動することの難しさもあり、対象学年を限定している。

**(委員)**

放課後子ども教室に携わっているが、事前に生涯学習課と密に相談して活動の詳細等を決めていきたい。実施回数については、年間11日ということか。

**(事務局)**

前期が対象の4校については、各校10月までに合計で11日間程度開催する。

**(事務局)**

体育施設については、昨年度末に県に対する要望書を提出する機会があり、県内には室内50mプールが無いとため、体育館も含めた県営複合体育施設誘致の要望書を提出している。

**(委員)**

幼稚園連合会の大会が今年岐阜県で開催され、岐阜市の国際会議場が修繕工事中のため羽島市の文化センターでの開催はどうかと提案したが、羽島市では宿泊施設の数が十分でなく、分科会の会場も確保しづらいという話があった。アスリートの方が羽島市に来られても、大勢で宿泊するとなると難しいと感じている。以前和太鼓の大会を実施した際も、宿泊施設が足りず多くの方が岐阜市へ移動することとなり、負担をかけた事例がある。

**(事務局)**

今年度は岐阜県でねんりんピックが開催され、全国より約1万人の選手・関係者が来岐される。本市ではゲートボール交流大会に参加する1,000人を超える選手・関係者の来市が見込まれてい

る。本市には、受け入れ先の宿泊施設が5軒あるが、市外での宿泊となる場合もあると聞いている。県が宿泊施設と大会会場間の巡回バスを手配して対応する。

**(委員)**

国体を開催した際も、宿泊地を一宮市や名古屋市に設けていた。食べたり泊まったりできる場所や施設の誘致について、もっと考えていかなければならない。

**(委員)**

市内の子ども会について、10年前は加入率80%を超えていたが現在は60%未満となっている。子どもの数はどんどん減っており、解散したいという地区も出てきている。各イベント等事業をスリム化して実施し、なるべく育成者の負担を減らしてきている。

一昨年度、市主催の防災ワークショップが各所で実施され、市内の中学2年生にも実施された。その中で大地震の発生後、隣人からの食料・宿泊援助等のお願いに対し断るといった回答が80%あったと聞いた。コロナ禍で小学5・6年生の大事な時に子ども会活動を体験できなかった中学2年生だからではないだろうか。思いやりの心や隣近所とのコミュニケーションを構築するのにも子ども会活動が重要であると確信した。

笠松町の子ども会は数年前に解散してしまったが、なんとか活動を継続し踏みとどまっていきたい。

**(事務局)**

子どもも保護者も地域の方も楽しめて魅力のある活動を目指して、現在単位子ども会や校区子ども会でさまざまな取り組みがされている。加入率は下がっているが、少しでも魅力ある活動が伝わるようにこちらも支えていきたい。

**(委員)**

子ども会の活動は大切であると考えている。地域が運営することではあるが、担い手の確保や啓発など、できる範囲で力添えをお願いしたい。

**(委員)**

青少年育成推進員について、引継ぎが上手くできていない。新

任の方は「何をしたら良いのかわからない」とよく相談に来る。各種研修会をもっと増やしてほしいと思っている。

**(事務局)**

4月11日に実施した青少年育成推進員の研修会でも、半数以上が新任の方であった。しかし、積極的な発言があり、そこで青少年育成や推進員の意義や目的について話し合うことができた。何を目的として活動するのか話し合う場を設けることは非常に大切である。

**(委員)**

子ども会の活動が縮小しているという話があった。レクリエーション協会でもファミリースポーツを行う予定であるが、ここ近年は行事参加者が少ない。小学生未満の親子の参加はあるが、小学生の参加が激減しており、会場に来てもつまらなさそうにゲーム機を持ってただ見ているだけという子もいる。親も面倒くさいという思いがあるのかもしれない。レクリエーションに限らず、神輿を担ぐお祭りなど地域の行事も含め、もっと参加できるよう声掛けしていくことが大切だと感じた。

**(事務局)**

委員が話されたとおり、各種フェスティバルを見ても楽しくなさそうに参加している子が増えたと感じている。活動としてはどれも魅力的な意味のあるものであるから、活動の良さや楽しさが伝わるような方法を考えていきたい。

**(委員)**

楽しく感じるものが年代によって違うのかもしれない。その視点も踏まえて検討していただけると良い。

**(委員)**

昨年11月に実施したなんスポフェスティバルでは、役員が何ヶ月前から動き入念に準備をした結果240名の参加があり、盛況であった。スポーツやレクリエーションなどが連携しアイデアを出し合えば、より良い活動ができると実感した。

**(委員)**

文化祭については、昨年までとは違い数日に渡って開催され、

各団体が発表していくので、見ごたえがあると思う。

学校の部活動について、文化系のクラブが地域へ移管するという話はどうなったか。

#### (委員)

美術部と茶華道部については、令和6年度を試行期間とし令和7年度から正式に移管している。美術部の指導者も、これまで特定の分野に特化した方で偏りがあったが、彫刻や油絵、水彩画など多方面で人材を確保することで、子どもも幅広く活動ができる。活動場所の確保が問題となっており、文化センターの茶室を開放してくれないかお願いをしている。来年度は竹鼻中学校の吹奏楽部の地域移管を目指している。さらに、パソコン教室も開催したいと思っている。

#### (事務局)

部活動の地域移行については教育委員会の主管であり、市民協働部としては受入先の団体や各スポーツクラブの支援に携わっている。文化センターの茶室は年数回しか使用されていない実態であったので、使用料が半額に減免となるように改正を予定している。ぜひ使用いただきたいと考えている。

#### (委員)

放課後子ども教室は、各回の内容が充実しており、学びが深い。学生からも「子どもとの関わり方について勉強になる」と好評である。対象を広げてほしいとは思いますが、高い質を保つには難しいところである。

図書館のおはなし広場について、令和7年度はこれまでどおりボランティアを確保して実施できるという認識でよいか。

#### (事務局)

昨年度ボランティア養成講座を開催し、新たに数名ボランティアとして登録いただいた。読み聞かせでお世話になっている各ボランティア団体には今年度もお世話になり、それぞれ実施いただく予定である。図書館としては場所を確保したり、ホームページで随時紹介したり、読み聞かせの見学等で各団体との仲介を行っていく。

**(委員)**

情報提供になるが、先日佐賀県の武雄図書館を訪問した。蔦屋書店を運営するCCCが指定管理を担っており、年間1,000件ものイベントを行っている。そこでは、大人向けの司書体験イベントがあり、仕事を知り楽しんでもらいたいという目的であるが、体験がきっかけで実際ボランティアや職員の確保につながっているというお話があった。ボランティア養成講座だと、ボランティアをやりたいという方しか集まらないが、ボランティアを確保する工夫の一つとして、そういった事例もあるので参考にしてほしい。

**3 その他**

令和7年度社会教育推進審議会及び各種研修会等について、事務局より審議会及び各種研修会等の日時・会場等を資料に基づき説明

**4 閉会**

以上